

2021年12月27日

株式会社マリン・ワーク・ジャパン
国立大学法人東京海洋大学
長井町漁業協同組合
横須賀市

報道関係各位

小型 ASV（小型無人ボート）を用いた磯焼け対策に関する実証試験実施について
「小型 ASV を用いたウニ密度マップによる効率的な駆除方法の検討」

株式会社マリン・ワーク・ジャパン（代表取締役社長 杉山 和弘）、国立大学法人東京海洋大学（学長 井関 俊夫）、長井町漁業協同組合（代表理事組合長 小澤 紳一郎）、横須賀市（市長 上地 克明）は、次世代モビリティの我が国沿岸・離島地域における新たな利活用を促進する国土交通省の実証試験「令和3年度 海の次世代モビリティの利活用に関する実証事業」に採択され、「小型ASVを用いたウニ密度マップによる効率的な駆除方法の検討」に取り組んでいます。

本実証試験海域では磯焼けが進んでおり、水産資源が著しく減少しています。本実証試験ではその磯焼けの原因の一つとなっているウニについて、漁業者が実施する駆除作業を効率化することを目的とし、以下について試験します。

- ウニ密度マップを用いることで広範囲の分布を把握することが可能となり、効率的な駆除を実現する
- 素潜りでは対応が困難な水深 5～10m の深場の分布を把握することを可能とする

また、本実証試験に用いる技術は以下への応用も可能と考えており、その可能性について検討します。

- 他の水産生物の密度マップ作成への応用
- 水中建造物である防波堤・水中魚礁・航路標識等における障害物等の事前調査

本実証試験では小型 ASV に搭載した水中カメラを用いた AI によるウニ検出とサイドスキャンソナーによる海底調査を無人航走により同時に実施し、それぞれ得られたデータを合成することにより調査海域のウニ密度のマップを作成します。ウニ密度マップはウニ駆除海域において重点的に作業する地点を選別することが可能となり、漁業者が実施するウニ駆除作業を効率化することが期待されています（実証試験概要については別紙 1 参照）。

【2021年12月13,14日 実証試験の様子】



写真1. 荒崎浜にて小型 ASV の航走試験



写真2. 開発した小型 ASV の解説



写真3. 航走・調査中の小型 ASV

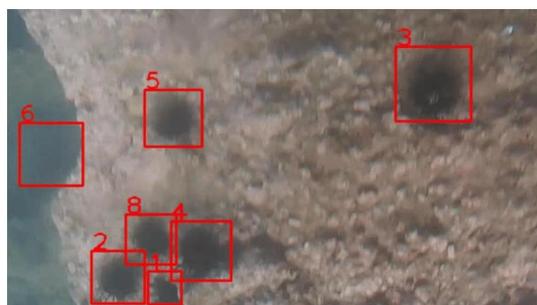


写真4. AIによって認識されたウニ画像

【メディア取材について】

下記日程において本実証試験を地元漁業者、神奈川県立海洋科学高等学校の生徒に見学いただき、次世代モビリティの技術ならびに磯焼け問題の一つとなっているウニの分布状況について紹介します。取材をご希望される場合には、事前にお申し込みください。なお、感染症拡大防止の観点から、各社最小人数での参加とし、参加者多数の場合には、内容を変更させていただく場合もありますので、予めご了承ください。

記

日時：2022年1月12日（水） 10:30～11:30（予定）※小雨決行・荒天中止

場所：荒崎海岸（神奈川県横須賀市長井6丁目28-5）

申し込み：2022年1月6日（木）12時までに、必要事項をメールでご連絡ください。

詳細は申込締切後、個別にご案内させていただきます。

必要事項〈a 件名【1/12 小型 ASV 実証試験参加】、b 会社名、c 担当者名、d 電話〉

申込先：株式会社マリン・ワーク・ジャパン 佐藤 satok_at_mwj.co.jp

（メール送信時は”_at_”を@に変更してください。）

【本リリースに関する問い合わせ先】

株式会社マリン・ワーク・ジャパン

事業推進部 松永・佐藤

TEL: 046-869-0045

以上

横須賀市事務担当

みなと振興部水産振興課 平出・三縄

直通 046-822-8298 内線 6381